

2024 年卒
Vol. 7

7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023 年 7 月発行)

2024 年卒業予定者の採用選考が 6 月 1 日に正式に解禁されてから 1 カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7 月 1 日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は 8 割台後半に達していることがわかった。

前年同時期調査との比較や、先月調査 (6 月調査) からの変化に着目して、ここまでの活動状況を分析したい。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は 86.0%。6 月時点 (81.3%) より 4.7 ポイント上昇
- 前年同期実績 (84.9%) を 1.1 ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の 74.3%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて 25.7%

2. 7月1日現在の就職活動量

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 24.8 社。前年同期 (26.9 社) より 2.1 社減
- ES 提出 13.9 社、筆記試験 9.8 社、面接試験 8.6 社。いずれも前年同期を下回る

3. 就職活動継続学生の動向

- 選考中企業 1.8 社、これから受験予定 1.7 社で、持ち駒企業数は 3.5 社
- 「新たな企業を探しながら、企業の幅を広げていく」が 6 月より大きく増加 (22.9%→32.4%)
- 「規模にこだわらずに活動」する学生が過半数に (52.5%)

4. 就職決定企業について

- 就職決定業界は前年に引き続き、文理とも「情報処理・ソフトウェア」が最多
- 知ったきっかけは「就職情報サイト」が 1 位。「就活以前から知っていた」が 2 位
- この企業で働きたいと具体的に思ったタイミングは「選考中に徐々に」(26.4%) が最多

5. 就職決定企業の内定者集合

- 調査時点で「内定者集合があった」38.4%。前年同期調査 (33.3%) より 5.1 ポイント増加
- 対面での参加が前年よりさらに増え、7 割近くに (49.2%→67.5%)

6. 就職環境への考え (売り手市場の実感)

- 売り手市場だと感じる学生は全体の半数強 (55.9%)。コロナ禍前と同水準に

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

- 調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,238 人 (文系男子 381 人、文系女子 379 人、理系男子 327 人、理系女子 151 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2023 年 7 月 1 日~5 日
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は86.0%で8割台後半に到達した。今期の内定率は序盤から前年同月を上回るペースで推移してきたが、この7月も引き続き前年実績(84.9%)を上回った。その差は1.1ポイントと僅差だが、選考解禁が6月になった2017年卒以降だけでなく、比較可能な2005年卒調査以降でも、7月としては最も高い数字を更新した。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは80.8%。6月調査(61.9%)から大きく上昇した。選考解禁を迎え本命企業の結果が出たことで、活動を終える学生が多かったとみられる。

なお、内定取得学生の多くが複数の企業から内定を得ており、内定社数の平均は今年も2.5社に上る。

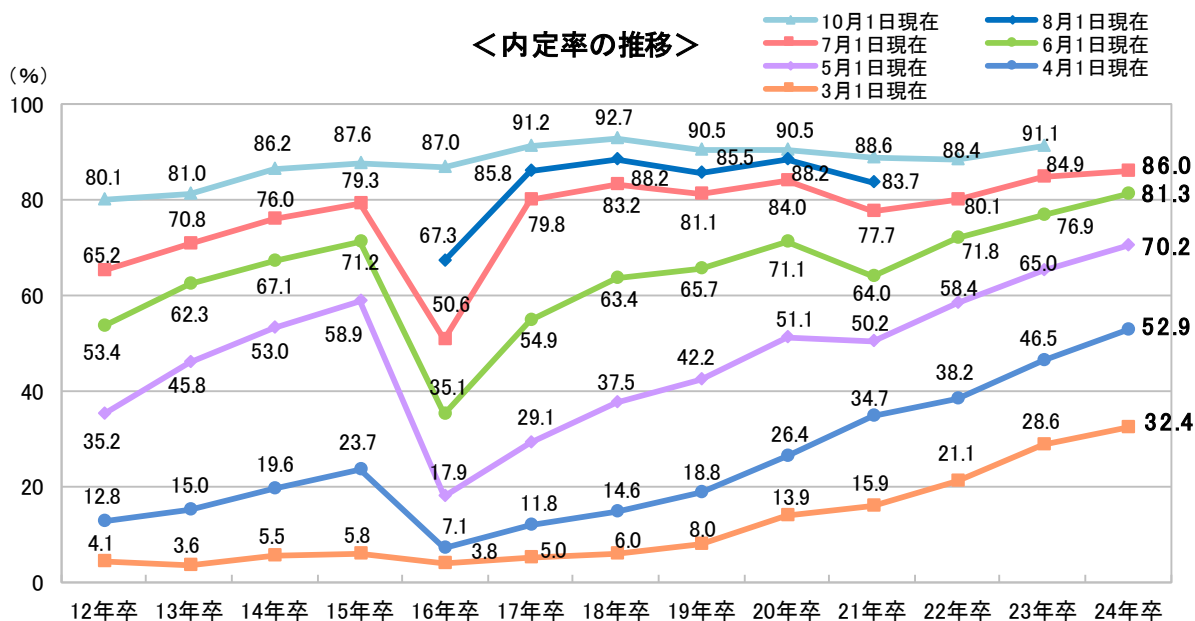
<7月1日現在の内定状況>

*「内定」には、内々定を含む

		全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		86.0 (84.9)	85.3 (84.3)	87.1 (84.2)	84.4 (83.9)	88.7 (91.0)
内定なし		14.0 (15.1)	14.7 (15.7)	12.9 (15.8)	15.6 (16.1)	11.3 (9.0)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	80.8 (82.7)	74.8 (80.5)	78.2 (78.3)	88.8 (87.4)	85.8 (90.2)
	活動は終了したが複数内定保持	4.6 (4.2)	4.6 (4.9)	6.1 (5.4)	3.6 (2.7)	3.0 (2.5)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.9 (0.9)	0.6 (0.6)	0.3 (0.3)	1.1 (1.9)	3.0 (0.8)
	就職活動継続	13.6 (12.2)	20.0 (14.0)	15.5 (15.9)	6.5 (8.0)	8.2 (6.6)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	2.5 (2.5)	2.4 (2.6)	2.7 (2.6)	2.3 (2.5)	2.5 (2.5)

※ () 内は前年(7月1日現在)の数値

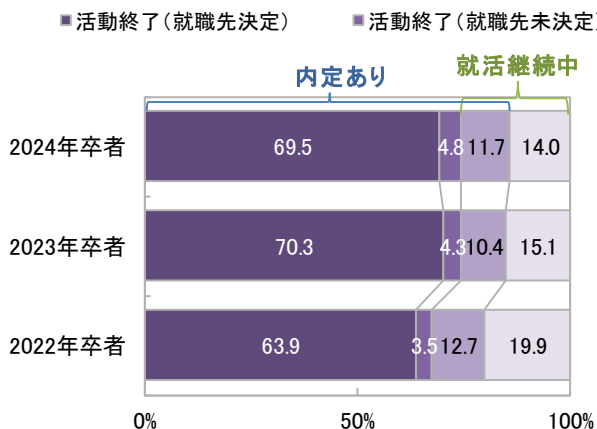


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~24年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒以降は8月のデータはなし

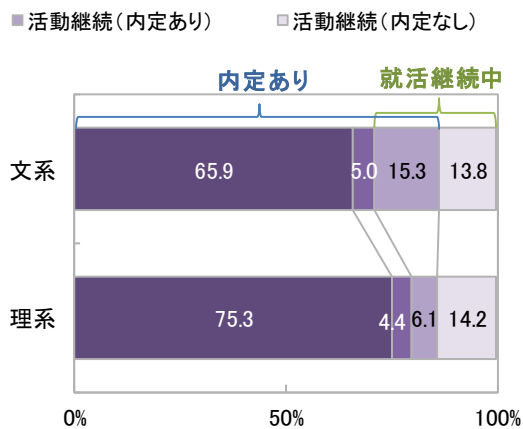
回答者全体を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 69.5%。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者 (4.8%) を合わせて、活動終了者は 74.3%。活動継続者は「内定あり」(11.7%)、「内定なし」(14.0%) を合わせて 25.7%。

これを文理別に見ると、文系は内定保持者も含め 3 割近く (計 29.1%) が継続中と回答。先月調査 (計 47.9%) より大きく減少したものの、理系に比べれば継続率は高い。

【3カ年比較】



【文理比較】



2. 7月1日現在の就職活動量

7月1日現在の就職活動量 (活動社数) を表にまとめた。

これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は24.8社。3月の解禁時点から一貫して前年同期実績を下回っており、企業を絞り込んで活動する動きが強まった (2.1社減)。企業セミナーの参加社数の平均も、前年より2.1社減少した (17.0社→14.9社)。対面での開催が増えたことで、移動や準備のため参加企業を絞った学生もいるとみられる。

エントリー社数の減少に伴い、エントリーシートの提出、筆記・適性テストなど、選考の入口部分も減少した。ただ、面接試験においては、減少の幅が小さい (9.2社→8.6社)。最終面接は前年と変わらず平均3.3社。

<7月1日現在の就職活動の状況 (活動社数)>

	(社)					
	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー	24.8	26.9	29.6	28.1	17.7	19.4
企業単独開催セミナー参加	14.9	17.0	16.2	16.9	11.7	12.8
エントリーシート提出	13.9	15.2	16.4	16.0	10.0	10.6
うち、通過した社数	9.7	10.5	11.3	11.0	7.3	7.1
筆記・適性テスト受験	9.8	10.7	11.2	10.7	7.8	7.8
グループディスカッション受験	3.0	3.0	3.3	3.2	2.0	3.5
面接試験受験	8.6	9.2	9.9	9.6	6.6	7.2
うち、最終面接	3.3	3.3	3.4	3.4	3.0	3.1

※それぞれ経験者を分母に平均社数を算出。(最終面接社数は、面接試験を受けた者を分母に算出)
※オンライン形式も含む

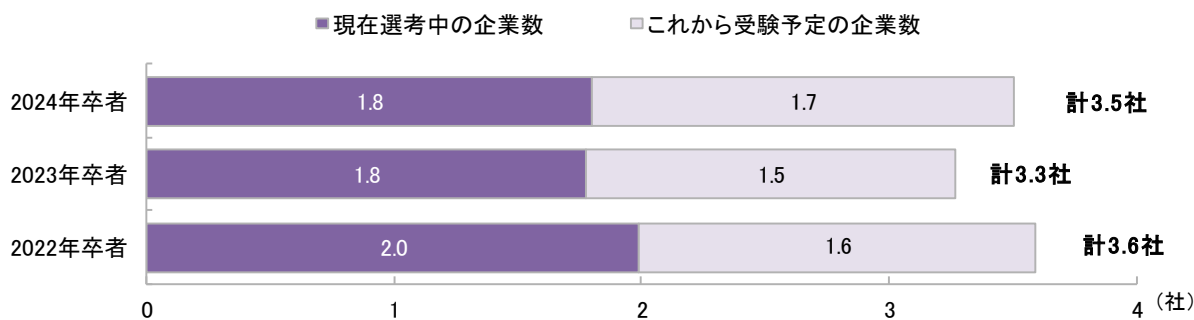
3. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の25.7%）の、現在選考中の企業数は平均1.8社。これから受験予定の企業数1.7社を足し合わせた、いわゆる持ち駒企業数は3.5社。

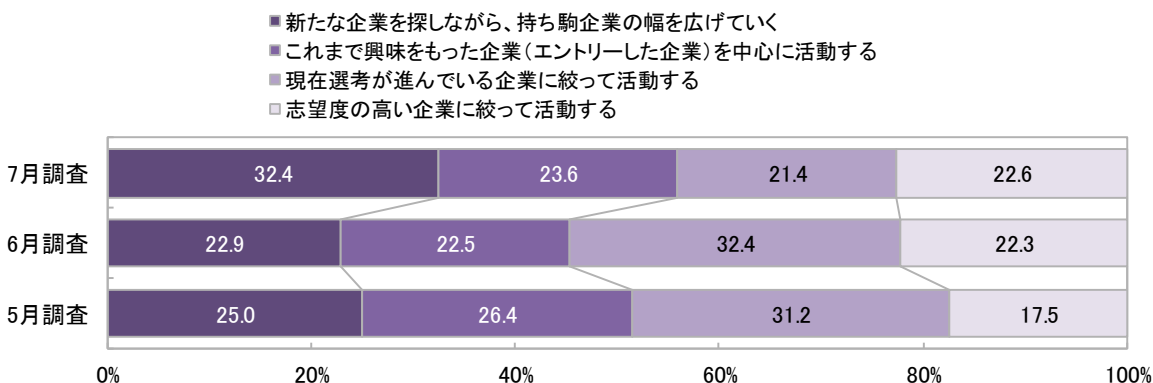
今後の方針・戦略について見てみると、6月調査では「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」が3割超で最も多かったが、7月は2割台に減少。代わりに「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」が増えた（22.9%→32.4%）。持ち駒企業が少なくなってきた学生を中心に、夏採用などに向けて視野を広げて仕切り直そうとする動きが見られる。

3月時点では半数以上の学生が業界トップや大手企業を目指していたが（計55.8%）、7月調査では計36.2%まで減少した。一方で「規模にこだわらずに活動する」割合が徐々に増えてきたが、6月から7月にかけてさらに増加し、過半数を占めた（52.5%）。

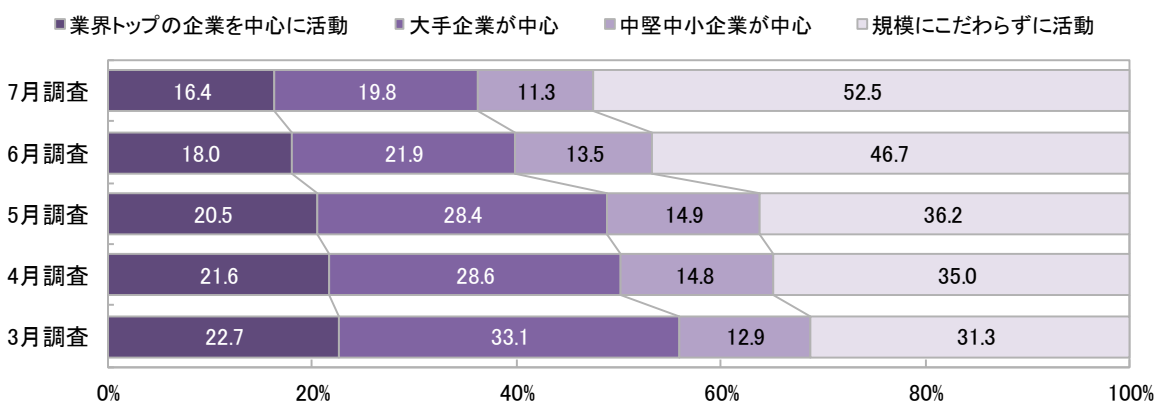
＜7月時点の持ち駒企業数＞



＜今後の就職活動の方針・戦略＞

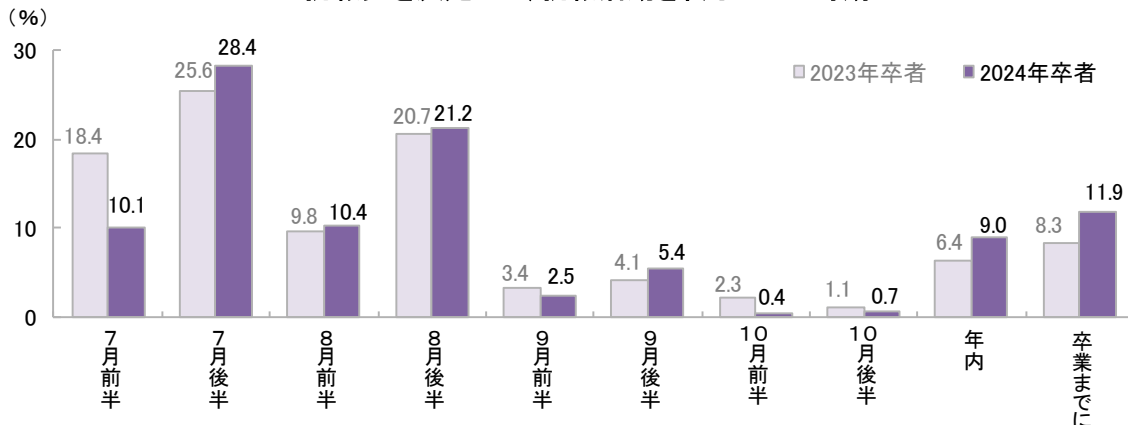


＜就職活動の中心としている企業規模＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、前年調査と同様に「7月後半」が最も多い(28.4%)。7月前半から8月後半までを合わせると7割に達し(計70.1%)、継続学生の多くが夏のうちに決めたいと考えていることがわかる。一方で、「年内」や「卒業までに」と回答する学生がそれぞれ前年調査を上回り、10月の正式内定にこだわらず長期戦を想定する人が増えているようだ。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



4. 就職決定企業について

この章では、就職先を決定して就職活動を終了した学生(モニター全体の69.5%)のデータを確認する。

まず、就職決定企業の業界を見ると、文理ともに「情報処理・ソフトウェア」が今年も1位。文系の2位は前年同様「銀行」で、3位「調査・コンサルタント」は前年4位から順位を上げ、4位「建設・住宅・不動産」と順位が入れ替わった。

理系の2位は「電子・電機」、3位「建設・住宅・不動産」まで前年と変わらず、上位に変動は見られない。4位に「自動車・輸送用機器」が続く(5位→4位)。

＜文系＞

順位	2023年卒者	%	順位	2024年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.4
2位	銀行	7.8	2位	銀行	8.2
3位	建設・住宅・不動産	5.9	3位	調査・コンサルタント	6.6
4位	調査・コンサルタント	5.7	4位	建設・住宅・不動産	5.8
5位	商社(専門)	5.5	5位	商社(専門)	5.4
6位	運輸・倉庫	4.3	6位	運輸・倉庫	4.2
7位	官公庁・団体	3.7	7位	マスコミ	4.0
8位	マスコミ	3.5	8位	その他サービス	3.8
	電子・電機	3.5	9位	情報・インターネットサービス	3.6
10位	その他サービス	3.3	10位	保険	3.4
				専門店	

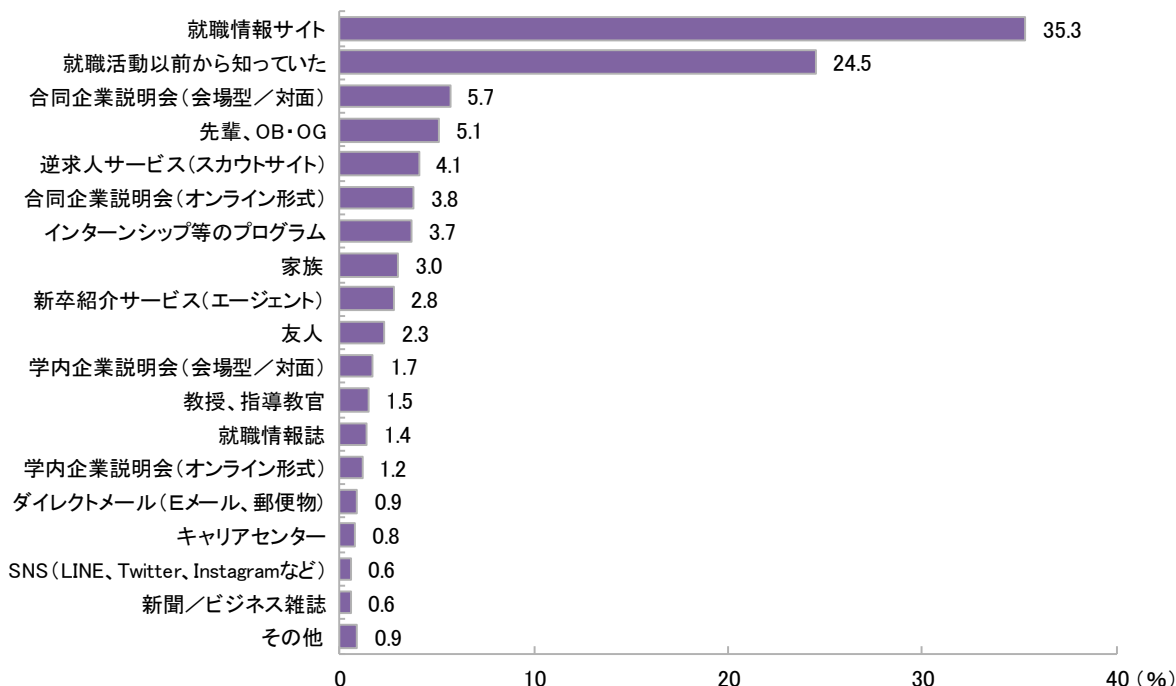
＜理系＞

順位	2023年卒者	%	順位	2024年卒者	%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.7	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.8
2位	電子・電機	10.1	2位	電子・電機	11.4
3位	建設・住宅・不動産	9.5	3位	建設・住宅・不動産	11.1
4位	素材・化学	8.9	4位	自動車・輸送用機器	7.8
5位	自動車・輸送用機器	8.0	5位	素材・化学	7.5
6位	機械・プラントエンジニアリング	5.6	6位	機械・プラントエンジニアリング	6.1
	エネルギー		7位	水産・食品	5.3
8位	調査・コンサルタント	5.0	8位	調査・コンサルタント	4.4
9位	情報・インターネットサービス	4.1		エネルギー	
10位	医薬品・医療関連・化粧品	3.6	9位	精密機器・医療用機器	3.1
	精密機器・医療用機器			通信関連	

※40業界のうち上位10業界を掲載
※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

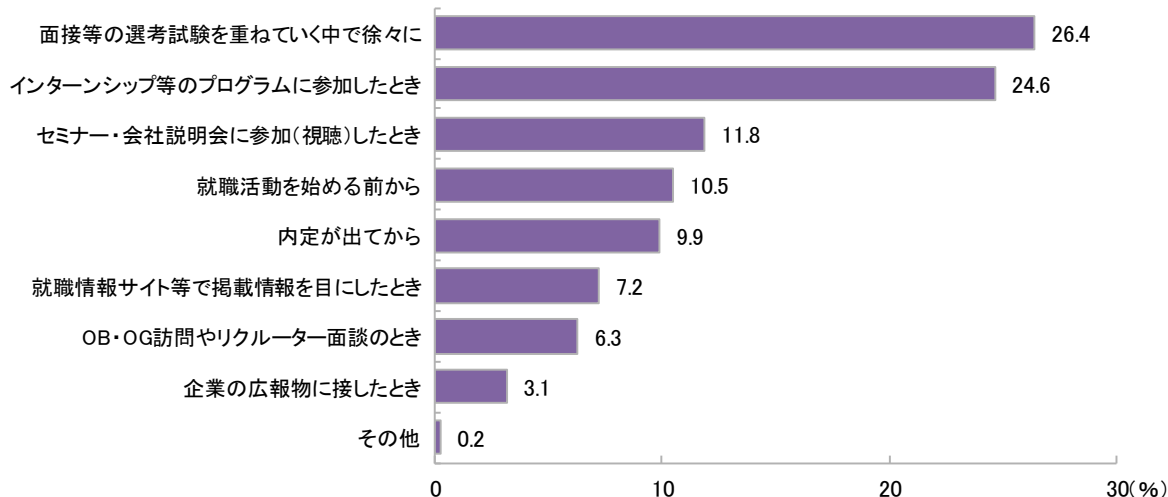
就職先企業を知ったきっかけは、「就職情報サイト」が35.3%と突出しており、学生にとって「就職活動の入り口」として、大きな役割を果たしていることがわかる。次いで「就職活動前から知っていた」が24.5%で続く。「合同企業説明会(オンライン形式)」以下はポイントが分散しており、様々なメディアやサービスなどが、企業との出会いのきっかけとなっている様子が見て取れる。

<就職決定企業を知ったきっかけ>



この企業で働きたいと思ったタイミングは、「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」(26.4%)が最も多く、面接官との対話を通し、仕事内容や企業への理解を深めたり、面接官の人柄から社風を感じ取ったりして、入社意欲を高めていった様子がうかがえる。次点は「インターンシップ等のプログラムに参加したとき」(24.6%)。早い段階で就職先として志望し、そのまま内定へと繋がっている学生が少なくなることが読み取れる。

<就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング>



5. 就職決定企業の内定者集合

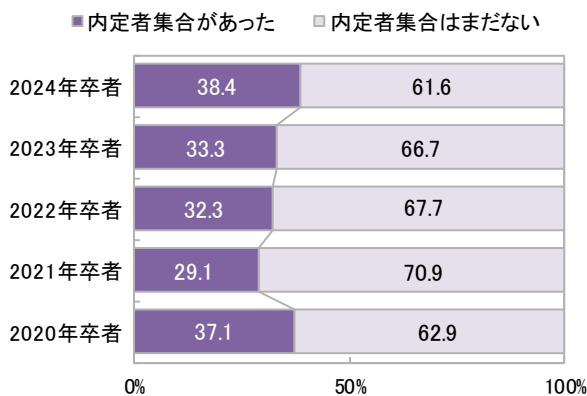
就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定者集合について尋ねた。

調査時点で「内定者集合があった」という回答は4割近くに上り(38.4%)、過去2年に比べ約5ポイント増えた。また、コロナ禍前の20年卒者(37.1%)をやや上回る経験率で、企業が積極的に実施している様子がうかがえる。

参加形式にも変化が見られる。対面での参加が67.5%で、前年調査(49.2%)よりさらに割合が増している。コロナ禍で選考だけでなく内定後のフォローもオンライン中心で行われてきたが、年々対面での実施に戻ってきていることがわかる。

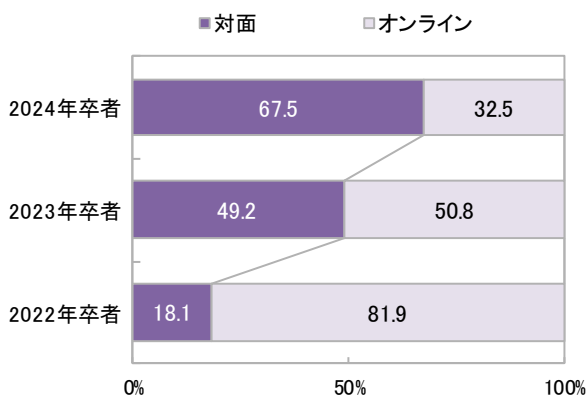
参加した学生からは、どちらの形式でも、社員との懇談を通して社風や仕事への理解を深めたり、内定者同士の交流を通して親交を深めたりした様子が多数報告されている。

<就職決定企業の内定者集合の有無>



※各年7月調査

<内定者集合の形式>



■内定者集合の内容

【対面】

- 早期に内定をもらった学生のみで、社食で立食パーティー形式の懇親会。人事の方以外にも、インターンシップで関わった現場社員の方も参加した。 <総合商社>
- 内定者懇親会のような形で互いの自己紹介などがあった。また、寮の見学なども行われた。 <機械>
- 西日本に住んでいる人たちの交流を目的とし、食事をしたりレクリエーションをしたりした。 <保険>
- 見学会と座談会。住宅の性能を知ることができる体験施設のようなところで行われた。また体験した後、座談会では実際に働いている社員の方に質問することができた。 <建設・住宅>
- 内定者同士で交流をし、実際に働いている先輩社員と話すことができる機会が設けられていた。また、オフィスツアーも行った。 <情報処理・ソフトウェア>

【オンライン】

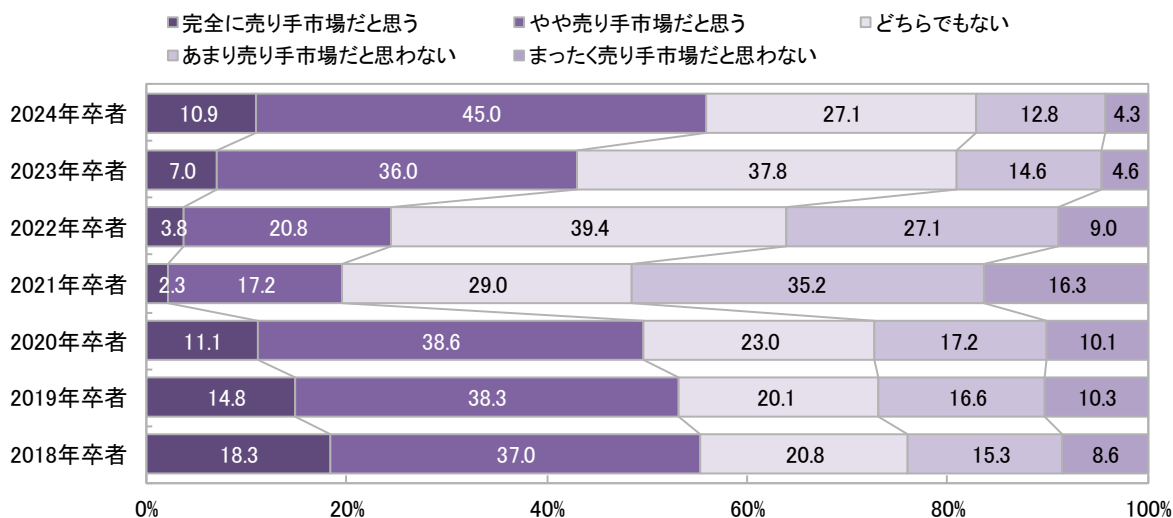
- ビデオ通話で内定者全員と人事担当の社員、それとは別に先輩社員1人と会話をした。 <調査・コンサル>
- 食事セットが会社から送られてきて、食事をしながらの内定者同士の懇談会があった。 <輸送用機器>
- 内定者同士で今不安なことについて話したり、それを基に人事の方が回答をしたりした。 <銀行>
- 内々定者同士でゲームをし、それぞれの情報を交換することで仲を深めた。 <電子・電機>
- 先輩社員と社長に質問に答えてもらい、会社のことをより知る機会にするイベント。当日答えられなかった質問もあったが、後日マイページに全返答が配信され、会社を深く知ることができた。 <フードサービス>

※<決定企業の業界>

6. 就職環境への考え (売り手市場の実感)

就職活動を通して、自分たちの就職環境をどう捉えているのかを全員に尋ねた。「完全に売り手市場だと思う」「やや売り手市場だと思う」を合わせると 55.9%。前年調査 (計 43.0%) より約 13 ポイント増加し、コロナ禍前の売り手市場と言われていた頃と近い数字を示した。売り手市場だと思う理由として、企業の積極的な姿勢や、内定の得やすさを挙げる声が目立った。

<就職環境への考え(売り手市場の実感)>



■就職環境への考え

【売り手市場だと思う】

- 周囲や自分を振り返ってみても、複数社受ければ大体どこかには入れそうだったから。 <理系男子>
- 大して志望動機が練れていなくても大手企業から内定をもらうことが可能であり、学生に対しての配慮も多く、就活生の価値の高さを感じた。 <文系男子>
- 私の志望している観光業界は特に人手不足で注目されており、採用したいという意欲が企業からうかがえるため。 <文系男子>
- 理系技術職で女性の採用を積極的に行っているため、自分には優位だと感じた。 <理系女子>
- 特に IT 系は、何となくでも面接に通ったため。 <文系男子>
- 初任給が上がっている企業が多いから。 <文系男子>
- 大企業の 2 次募集に応募してすんなり内定が出たので、売り手市場なのかなと思った。 <文系女子>
- 求人も多く、優良企業の採用枠もまだ多くあると思われるため。 <理系男子>

【どちらでもない】

- 職種や業界を選ばなければ売り手市場だと感じるが、専門職などの特定の職種に関してはシビアなため、そこまで売り手市場である印象はない。 <文系男子>
- 自分の就活はすぐ終わったが、周りの就活は苦戦しているため。 <理系女子>

【売り手市場だと思わない】

- コロナ禍の影響によりオンライン化が進んだことで、志望度や出身地等を問わず幅広い学生がライバルになったと感じたから。 <文系男子>
- まだまだ学生の立場は弱いと感じた。勤務先の希望なども通らない。 <文系女子>
- 働き手が足りないがよく聞かすが、全然内定がない人も一定数いるから。 <理系女子>